

ステレオ眼底カメラ nonmyd WXの実力

2013年1月27日(日) 8:00~8:50

第5会場(福岡国際会議場 2F 202)

座長

中澤 徹 先生

東北大学大学院医学系研究科
神経・感覚器病態学講座
眼科学分野 教授



緑内障診断には視神経乳頭陥凹とリム菲薄化の判定が重要である。眼底写真による乳頭陥凹の判定は健康診断で重要な地位を占める検査である。しかし、乳頭形状には多様性があり、特に日本人に多い近視に伴う傾斜乳頭では耳側の視神経乳頭陥凹やリムの判定は難しい。また、通常の眼底写真では、平面写真から立体的な陥凹を判定しなければならず、その判定は定性的であることが問題である。興和のnonmyd WXはステレオ眼底カメラであり、乳頭陥凹を定量的に示す機能が備わっているため、これらの点が解決される。本セミナーでは、実際にお使いになっている2人の緑内障エキスパートの先生方に、この眼底カメラの実力について解説していただく。新田先生からは実際の診療において本カメラの有効な使い方について、北岡先生からはこのカメラの定量性を発揮した多施設共同研究The Glaucoma Stereo Analysis Study (GSAS)における成果を総括していただく。本セミナーでは、ステレオ眼底カメラnonmyd WXの緑内障診療における有用性を紹介する。

演者

演題 1

ステレオ眼底nonmyd WX 3Dの魅力を生かした緑内障診療

新田 耕治 先生

福井県済生会病院 眼科部長



演題 2

GSAS(The Glaucoma Stereo Analysis Study)から分かる初期中期緑内障の視神経乳頭形状：臨床像により近いC/D比

北岡 康史 先生

聖マリアンナ医科大学大学院
医学研究科眼科学 講師

